

東海医療工学専門学校 学校自己点検・評価表

評価対象期間・：令和6年4月1日～令和7年3月31日

実施日：令和7年6月4日

1. 令和7年度 教育目標

【 令和7年度 教育理念 】

責任感と倫理観を持ち、失敗を恐れず、日々の自己研鑽を怠らず、社会に貢献できる専門職業人を育成する。

【 令和7年度 教育目標 】

1. 在籍するすべての学生が目標を達成し、各々の満足が得られる教育の提供
2. 学生及び教職員がお互いに敬意をもって「挨拶・対話・助け合い」のできる教育環境の整備
3. 全員進級、全員卒業、全員国家試験合格へ導くための教育の提供
4. 学生の進路に応じた実践教育を提供するための教育カリキュラムの改訂と次年度に向けた教育提供準備

2. 令和7年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 主な就職先となる消防機関における社会的なニーズに応じた知識・技術が十分に活かせる実践教育の提供
- (2) 近年増加傾向にある医療機関に勤務する病院内救急救命士に対する教育カリキュラムの策定と実践教育の提供
- (3) 消防機関などの病院前救護活動を担う人材育成に欠かせないシミュレーション教育において「VR・AR技術」「災害ドローン技術」などの職業実践に反映できるICT教育の導入と救急DXに関する情報提供を目的とした教育提供
- (4) 1年次初期から基礎学力の向上を目的とした国家試験問題の導入、成績の自己認識化、不足知識に対する放課後などを活用した補習の実施による学力の安定化と知識不足に伴う退学防止策
- (5) 講義以外における学生への積極的な「挨拶・対話」を心掛け、問題の早期発見及び早期対応化
- (6) クレド（教職員の信念や行動に対する教育目標及び行動指針）の策定及びマニュアルの作成

3. 令和6年度の評価項目の達成及び取組状況

1 教育理念・目標		適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1
1-1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	3
1-2	学生・保証人（保護者）に対して教育理念等を明文化し、周知しているか	3
1-3	教職員に対して教育理念等を明文化し、周知徹底を図っているか	3
1-4	学外の方に対して教育理念等を明文化し、公表しているか	3
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3
1-6	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか（学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズを調査しているか）	3
1-7	学校における職業教育の特色は明確になっているか	3

① 課題

日本救急救命士会及び救急救命士教育施設協議会との連携及び外部情報を得ながら、将来的な展望を持って救急救命士の社会的ニーズに基づいた実践教育の提供が達成できた。

また、令和3年10月以降に法改正されたことで救命センターなどで勤務する救急救命士の必要性が高まってきたことにより、教育カリキュラムの構築が求められてきた。次年度以降には具体的な教育カリキュラムの改訂を行い、「救急搬送後の医療提供」「多職種業務に対する理解」などについて学生教育へ反映させていく。

② 今後の改善方策

教育カリキュラムの構築と共に専任教員が医療機関に勤務する救急救命士の実情などを学び学生教育に反映していく必要がある。引き続き日本救急救命士会及び救急救命士教育施設協議会との関係性を深めていき、学生ニーズに応じた社会実情の把握に努めていき、さらには実践教育の提供を構築していく教育理念の改善を図っていく。

また改善後の教育理念及び目標の学生への周知はオリエンテーションや校内の掲示によって伝わるように努める。

③ 特記事項

令和3年度より海上保安庁より派遣職員2名による救急救命士教育の受け入れを行い、初めての卒業生を出すこととなった。2名とも希望する所属に入所し、救急救命士教育に対しても満足いく結果が残せた。

引き続き海上保安庁との関係性を築き、多職種に反映できる教育理念及び教育目標の更新と充実化を図っていく。

2 学校運営		適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1
2-1	教育方針や教育目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2-2	運営方針を教職員に周知しているか、また必要に応じてその理解の状況を確認しているか	4
2-3	寄附行為、理事会会議規則等（法人）、学校の運営規程等が整備され、それらに従って理事会・評議員会（法人）が開催されているか	4
2-4	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
2-5	運営会議（学科長会・教学事務連絡会等）が定期的に行われているか	4
2-6	専攻分野に係る関連分野の企業・団体等と連携し、実務に関する研修や指導力の修得・向上のための研修等を受講させているか	3
2-7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	4
2-8	人事、給与に関する制度を整備しているか	4

① 課題

教員研修について、専門分野の実務に関する研修には受講できているが、指導力や教育に関する研修の受講は、対象となる研修が少ない場合や遠方で受講しにくい場合がある。

② 今後の改善方策

指導力や教育に関する研修は、外部講師を学校に招聘し、学校で受講できるようにした。今年度は教職員全体研修として8月6日に実施をする。

③ 特記事項

- ・令和7年度から工学校の空き教室を活用した不動産賃貸業を行うために、寄附行為を改正した。
- ・運営方針を教職員に周知するために、4月1日に全教職員を対象とした教職員会議を開催し、理事長による事業方針の説明、法人本部各部署の事業計画の説明をした。

3 教育活動		適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1
3-1	教育目的および育成人材像に基づき教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）を明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。	4
3-2	教育目的および育成人材像に基づきディプロマポリシーを明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか	4
3-3	講義および実習に関するシラバスは作成されているか	4
3-4	各科目の一コマの授業について、その授業シラバスが作成されているか	4
3-5	シラバスあるいは講義要項（作成されていればコマシラバス）などが事前に学生に示され（あるいはホームページなどで公開されて）、授業で有効活用されているか	4
3-6	質保証を目的とした授業や学習の定期的な観察を実施しているか	4
3-7	学生によるアンケート等で、適切に授業評価を実施しているか（学習の目的を満たしているか、満足度を含めて定期的に確認しているか）	4
3-8	評価結果を教員にフィードバックするなど、その結果を授業改善に役立てているか	4
3-9	カリキュラム作成メンバーの中に業界関係者などの外部関係者を入れているかまたはその意見を取り入れているか	4
3-10	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
3-11	学生や保証人（保護者）に対し、成績評価・単位認定の基準、進級要件、卒業要件はきちんと提示されているか	4
3-12	各規定に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか	4
3-13	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか（発行する修了証明書の種類及び内容）	4
3-14	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか	4

① 課題

救急救命士の社会的なニーズを「職業実践教育課程編成委員会」で協議し、教育理念に反映させている。さらに教育理念に応じたカリキュラムを外部関係者及び学生（卒業生）アンケートなどの幅広い意見を参考に構築し、シラバス作成や実務教育に反映させてきた。教育理念の課題でもあるように次年度以降には具体的な教育カリキュラムの改訂を行い、「救急搬送後の医療提供」「多職種業務に対する理解」などについて学生教育へ反映させていく。

② 今後の改善方策

法的根拠や医学的な根拠を基盤とした2年課程でありながら、最大の効果が発揮できる教育カリキュラムとして国家試験全員受験並びに全員合格という成果を残せたが、外来講師をはじめとする本校の授業担当者とこれまで以上に協議し、科目時間数の見直しと専門性の追及（病院に所属する救急救命士の教育など）を図った学生に魅力ある実践教育の提供に努めていく。

③ 特記事項

救急救命士標準テキスト改訂第11版が令和7年5月に出版され、教育内容の一部改訂及び追加が認められた。一部改訂内容及び追加内容に関してはガイドラインの変更段階で早急に導入し、学生教育に反映していた。記載の義務はないが学生の自己学習の補助を図るために、例年であればシラバスなどに救急救命士標準テキストの参照ページ数を記載していたが、令和7年10月～令和8年1月に完成を目途にページ数の改善作業を行っていく。

4 学修成果・教育成果		適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1
4-1	学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか	4
4-2	対外部に向けた就職実績を公表しているか（パンフレット・HP等）	4
4-3	資格取得率の向上が図られているか（目標とする資格試験等への合格率は全国平均と比較してどうか）	4
4-4	国家試験結果に関して検証・報告がされたか	4
4-5	国家試験結果（合格者数・合格率）を公表しているか	4
4-6	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか（卒業生の就職後の動向を出来るだけ把握し、卒業後にも就職その他の支援を行っているか）	2

① 課題

救急救命士標準テキスト改訂第11版が令和7年5月に出版され、教育内容の一部改訂及び追加が求められた。一部改訂内容及び追加内容に関してはガイドラインの変更段階で早急に導入し、学生教育に反映していた。記載の義務はないが学生の自己学習の補助を図るために、例年であればシラバスなどに救急救命士標準テキストの参照ページ数を記載していたが、令和7年10月～令和8年1月に完成を目途にページ数の改善作業を行っていく。

② 今後の改善方策

令和7年5月より救急救命士標準テキスト改訂第11版が出版されたこともあり、救急救命士国家試験に反映される恐れがある。

新しい知識と技術に関しては教員による各種セミナー参加によってアップデートしていき、学生へ教授していく。同時にオリジナルの国家試験問題を作成していき、出題に対する経験と成績分析による低迷学生へのアプローチの材料に加えていく。

また、少子化に伴う学生募集の観点からも基礎学力不足が考えられ、早い段階（1年次4月～7月）で解剖生理学などの基礎学力の向上を図っていくことで、国家試験時の学習に反映していく。

③ 特記事項

2年連続国家試験全員合格の成果のひとつとして、定期的な学生成績の分析を行い、性格的な要素・記憶の取得方法・日常的な学習及び生活リズムを把握したうえで効果的な教育指導の教授を心掛けている。

そのなかでも成績ではなく、学生全員に対して声をかけることで信頼関係の構築を行い、成績上位者の自発性の向上が図れた。また成績低迷者への声掛けは過程重視の評価を行い、学習習慣の定着と自信喪失の低迷を図った。

5 学生支援		適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1
5-1	学生への修学支援を適切に行っているか	4
5-2	進路・就職に関する支援体制は整備されているか（またそれはきちんと学生や保証人（保護者）に周知されているか）	4
5-3	学生相談に関する体制は整備されているか（相談窓口が設置されているか）	4
5-4	学生の面談・相談記録があるか	4
5-5	奨学金制度など、学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
5-6	学生の健康管理を担う組織体制はあるか（学生の健康診断を実施しているか、また健康相談窓口は整備されているか）	4
5-7	退学率の低減が図られているか（出欠状況及び学習者の減少に関する分析が行われているか）	4
5-8	退学率の低減に関する目標・計画が教職員に共有されているか	4
5-9	退学者数を公表しているか	4
5-10	保証人（保護者）と適切に連携しているか（保証人のニーズを把握しているか）	4
5-11	保証人（保護者）との計画的な相談会・面談を行っているか	4
5-12	卒業生への支援体制を整備しているか（再就職、キャリアアップ等について、相談にのっているか）	4
5-13	卒業生への卒業後教育等の支援体制はあるか（卒業生への講習・研修を行っているか）	4

① 課題

修学支援などの学生支援はシステム化されており、日常的に浸透および運営されている。

また、令和5年度に至っては自主退学者の増加を呈したが、退学防止策の作成及び実施に伴い、大幅に減少となった。継続的に実施する意味でも引き続き検証、分析を行い、学生に寄り添って早期問題解決を実施できるコミュニケーションと学習環境の整備を実施していく。

② 今後の改善方策

令和5年度に関しては学生の人間関係の形成の不安を解消するイベントとして郊外における学生交流会や定期的な学生面談を実施したことで自主退学の大幅な減少に反映できた。

また、就職支援として近年、需要が高まってきた「医療機関に勤める救急救命士」に対する教育として具体的なカリキュラムを作成していき、職業実践教育として円滑的な就職支援を提供していく。

③ 特記事項

現在、卒業生への卒後教育の一環として「リカレント教育」を計画している。現在、多様化する救急救命士の就労環境と医学知識・技術の発展を考慮し、本校卒業後の就労と教育を円滑的かつ継続的に学べる環境を準備している。

《 具体例 》

「医療機関に所属する救急救命士」への再就職を考慮した卒後教育支援、救急医療関連資格の事前教育支援など

6 教育環境		適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1
6-1	学生が利用できる参考図書・関連図書は備えられているか	4
6-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか	4
6-3	学内外の実習施設、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
6-4	防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	3
6-5	防災・防犯設備（非常灯・消火器・警備システム等）が整備・点検されているか	4
6-6	定期的に防災訓練を実施しているか	3

① 課題

元消防職員の防災担当者が従事していることもあり、防災管理などに関しては定期検査及び避難訓練などで徹底されている。現状の問題点としては建築物の老朽化に伴い、大地震などの大規模災害発生時に最低限度の対応と学生の安全確保は準備しているが想定外に対する事前準備は不十分であると判断する。

また、教育教材としての参考図書・関連図書は定期的に更新しており、学生教育上で最新の情報を知る機会を設けている。昨年度は救急医療の発展途上にあるタイ・チェンマイへの海外研修旅行を実施し、幅広い視野と多くの発見を得るきっかけとなった。

② 今後の改善方策

燃料費などの高騰に伴い、海外研修を計画的に運用していくことが困難な状況にもある。海外研修の代替案として海外の救急医療の実情が把握できるセミナーの開催もしくは日本国内における救急医療関連の実習（救急車同乗実習、多数傷病者発生対応訓練への参加など）を通じて学習できる環境の充実化を図る。

また、避難訓練などに関しても大規模な地震発生時や飛来物による被弾時の対応なども学生教育も兼ねて訓練と教育を行っていく。

③ 特記事項

学生の閲覧できる参考資料、図書類、雑誌類は極力、学生意見を収集し、必要に応じた図書購入に反映させている。近年においては消防機関における採用試験においても「SPI」「SCOA」などが用いられている関係で、関連書籍を購入し、就職支援にも大きく反映している。

また、最先端のVRゴーグルによるICT教育を導入し、通常であれば危険である救急事故現場などを身近に実感できる疑似体験による学びに反映させていく。

7 学生の受入れ募集		適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1
7-1	学校案内に、育成人材像、特徴、目指す資格・免許等をわかりやすく紹介しているか	3
7-2	学校説明会等による情報提供（育成人材像、目指す資格、学費・教材費等の情報）を行っているか	4
7-3	入学予定者に対し学習指導・支援等が行われているか	4
7-4	学校案内等には選抜方法が明示されているか（入学に必要な学力、スキル、資格、職業経験などの、前提となる要件が明示されているか）	4
7-5	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか	4

7-6	学納金は妥当なものとなっているか	4
7-7	学校案内等に、学費、受験料、学習教材の購入費等が明示されているか	4

① 課題

学校案内には紙面の限りがあるため、ディプロマポリシーなどの3つのポリシーはホームページ上で掲載している。

② 今後の改善方策

学校案内に3つのポリシーを紹介しているホームページを紹介する二次元コードの掲載を検討する。

③ 特記事項

特になし。

8 教育の内部質保証システム		適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1
8-1	養成施設指定規則等の遵守と適正な運営がなされているか	4
8-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか	4
8-3	ハラスメントの防止について規定を文書化し、対策を立て実行しているか	4
8-4	学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	4
8-5	個人情報保護規程が文書化されているか	4
8-6	自己点検・評価の結果に基づき改善計画を策定したか	4
8-7	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、改善の取組みを行っているか	4
8-8	自己評価、学校関係者評価結果及び教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4

① 課題

- ・情報セキュリティ関連の意識向上のための特別な講習会等ができなかったが、随時個別に指導を行った。
- ・内部監査員を学科長級の教員から選任することを検討したが、学科長の業務が増加しており、負担過重になることが想定されたため、事務職員で監査を実施した。

② 今後の改善方策

- ・情報セキュリティ関連の講習会を実施し、教職員の情報スキル向上を図るため、eラーニングや試験の導入を検討し、全体的なリテラシー向上に努めていく。

③ 特記事項

- ・内部監査について、法人本部総務部と経理課職員が監査を担当し、教学監査を実施した。一部の項目では是正処置とフォローアップを行ったが、最終的には不適合な事項はなかった。

9 財務		適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1
9-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか	4
9-2	年度予算・中期計画が策定されているか	4
9-3	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
9-4	予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか	3
9-5	私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか	4
9-6	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか	4
9-7	財務情報の公開について、ホームページに公開するなど積極的に取組んでいるか	4

① 課題

学生数の減少により、経常収支の黒字額が減少した。
また、物価高により経費削減が必要である。

② 今後の改善方策

- ・経費削減について学内コミュニケーションツールを使い、アイデアを募った。教材費の上限を設臨床実習費の経費削減策などについて意見があった。実施可能な事項は、実施計画を立案して、実施していく。
- ・臨時案件について財務面での中長期計画を策定した上での判断をするようにする。引き続き、計画的な学校ごとの施設設備の修繕を改修計画に基づき実施していく。
- ・消耗品や光熱費、コピー機の使用状況に加え、昨年度より値上げされた郵便料金や実習時の宿泊費等を学科ごとに分類することで、各学科における経費の詳細を把握するとともに、教職員に対するコスト意識の徹底を図っていく。

③ 特記事項

会計監査は、公認会計士及び監事により適正に行われている。

10 社会貢献・地域貢献		適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
10-2	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4
10-3	学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	4

① 課題

毎年、本校の所属する地域の小学校の社会見学「まちかどたんけん」に協力し、校内の案内などの小学校教育の手助けとして貢献している。また愛知県下における高等学校へ心肺蘇生の普及啓発、養護施設への救護活動の出張講演などの公開講座を開講し、社会貢献に貢献できるように努めている。

なお、所轄消防本部などにおけるボランティア募集の際には積極的に参加できるように情報提供などを行っていき、学生の体験から得られる学びを支援している。

② 今後の改善方策

数年前のコロナウイルス感染症の感染拡大の懸念も低下し、ボランティア募集が比較的増加しつつある。学校から得られた情報提供から学生がボランティアを把握している状況であるが、学生自身が自発的に確認・参加できるシステムも今後考慮していく必要性を感じる。（間接的な紹介・介入では本来のボランティアで求められる自発性について不明確である）

③ 特記事項

現在、知的な財産共有として、本校の専任講師が全国救急救命士教育施設協議会における国家試験対策委員会として全国の救急救命士を志す学生に対して、国家試験問題の作成及び提供、学習セミナーの開催などの社会貢献、支援を行っている。

また、全国救急救命士教育施設協議会とライフサポート協会との協定により心肺蘇生普及啓発を大学・専門学校などの教育機関で実施できるように進行している。将来的には心肺蘇生の普及啓発として地域貢献・社会貢献が今以上に期待できる。